

碧南市公共施設カルテ

調査年度	平成30年度
------	--------

施設名	市民図書館		
従たる施設の場合、主たる施設名	-		

大分類	社会教育系施設	中分類	図書館	施設番号	18
-----	---------	-----	-----	------	----

所管部局	文化創造課
------	-------

1 土地データ

所在地 (小学校地区)	碧南市 鶴見町1丁目70番地1	敷地面積	9,277 ㎡
	(新川小学校区)	うち借地面積	3,101 ㎡

2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)

構成棟	市民図書館				
複合・併設施設	芸術文化ホール				
建築年度	平成5年度	経過年数	25年	総取得費	3,769,790千円
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造	延床面積	4,327 ㎡	うち借用面積	- ㎡
階数(地上)	2階	階数(地下)	1階	避難所指定	指定無し

3 管理運営データ

利用状況※1	H27年度	H28年度	H29年度	平均利用者数	管理形態		
	185,674人	181,791人	167,391人	178,285人	指定管理(管理料)		
施設コスト※2 (H27~29年度) (ファシリティコスト)	内 訳		金額(円)	内 訳		金額(円)	
	収 入	利用料等	-	支 出	①維持コスト	人件費(賃金含)	27,033,885
		国 費	-		修繕料	2,270,284	
		県 費	-		火災保険料	98,543	
		その他	147,036		維持管理委託料	21,479,840	
		市費(一般財源)	149,565,223		敷地借上料	5,631,552	
	合 計		149,712,259	工事請負費	3,600,900		
	施設外観			その他維持費	10,815,000		
				小 計	70,930,004		
				②運営コスト	人件費(賃金含)	47,816,491	
			光熱水費	12,936,655			
			その他委託料	3,193,987			
			その他運営費(事業費)	14,835,122			
			小 計	78,782,255			
			合 計(①+②)	149,712,259			
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3		延床面積1㎡当たりの施設コスト※4				
	840 円/人		34,600 円/㎡				
	利用者1人当たりの負担額※5		市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6				
		- 円/人	2,056 円/人				
特記事項							

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

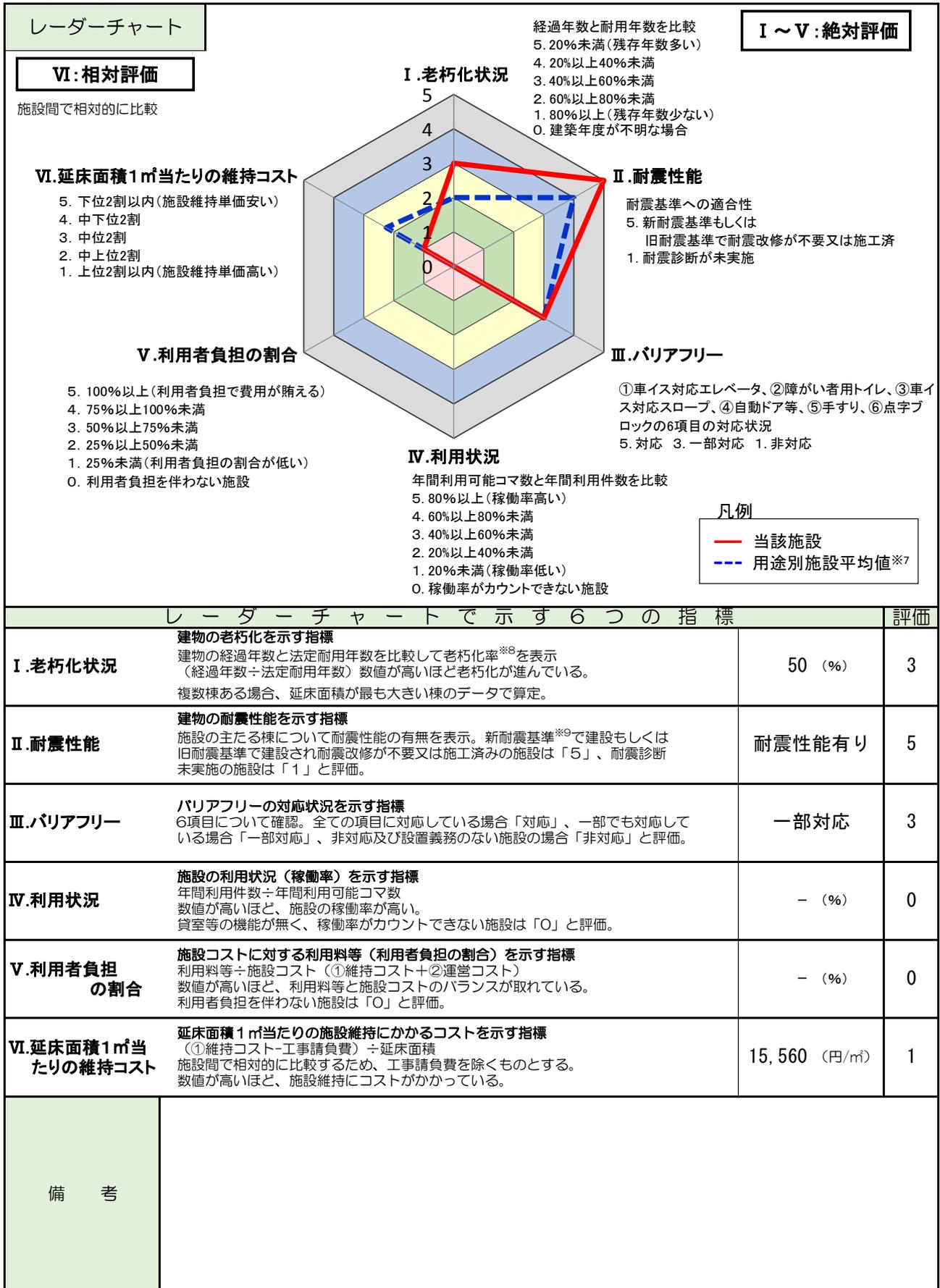
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1㎡当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(平成30年4月1日現在の72,762人)

4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。

碧南市公共施設カルテ

調査年度	平成30年度
------	--------

施設名	市民図書館中部分館		
従たる施設の場合、主たる施設名	-		

大分類	社会教育系施設	中分類	図書館	施設番号	19
-----	---------	-----	-----	------	----

所管部局	文化創造課
------	-------

1 土地データ

所在地 (小学校地区)	碧南市 源氏神明町2番地 (中央小学校区)	敷地面積	文化会館敷地内 m ²
		うち借地面積	- m ²

2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)

構成棟	市民図書館中部分館、自転車置場、物置				
複合・併設施設	市史資料調査室				
建築年度	昭和44～平成7年度	経過年数	23～49年	総取得費	- 千円
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	1,203 m ²	うち借用面積	- m ²
階数(地上)	2階	階数(地下)	- 階	避難所指定	指定無し

3 管理運営データ

利用状況※1	H27年度		H28年度		H29年度		平均利用者数	管理形態	
	61,946 人		55,693 人		53,805 人		57,148 人	直営	
施設コスト※2 (H27～29年度) (ファシリティコスト) ①維持コスト 建物を良好に保つ ために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供 するために要する 経費	内 訳		金額(円)		内 訳		金額(円)		
	収 入	利用料等		-		支 出	①維持コスト	人件費(賃金含)	3,683,895
		国 費		-			修繕料	665,063	
		県 費		-			火災保険料	5,211	
		その他		35,294			維持管理委託料	1,914,776	
		市費(一般財源)		29,109,127			敷地借上料	-	
	合 計		29,144,421			工事請負費	109,440		
	施設外観						その他維持費	-	
							小 計	6,378,385	
							②運営コスト	人件費(賃金含)	17,790,870
						光熱水費	1,632,719		
						その他委託料	-		
						その他運営費(事業費)	3,342,447		
						小 計	22,766,036		
						合 計(①+②)	29,144,421		
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3				延床面積1m ² 当たりの施設コスト※4				
	510 円/人				24,226 円/m ²				
	利用者1人当たりの負担額※5				市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6				
- 円/人				400 円/人					
特記事項									

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

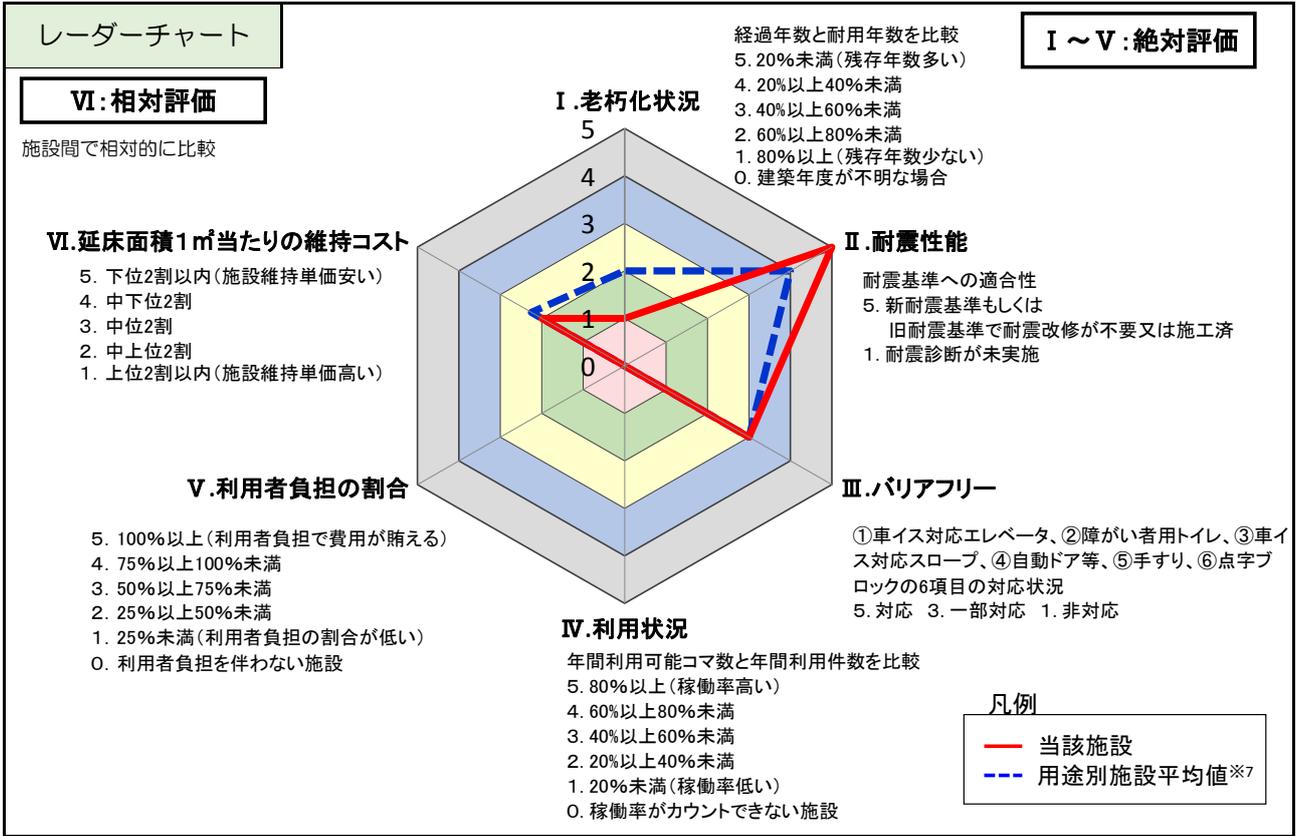
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1m²当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(平成30年4月1日現在の72,762人)

4 データ分析



レーダーチャートで示す6つの指標			評価
I. 老朽化状況	建物の老朽化を示す指標 建物の経過年数と法定耐用年数を比較して老朽化率※8を表示 (経過年数÷法定耐用年数) 数値が高いほど老朽化が進んでいる。 複数棟ある場合、延床面積が最も大きい棟のデータで算定。	98 (%)	1
II. 耐震性能	建物の耐震性能を示す指標 施設の主たる棟について耐震性能の有無を表示。新耐震基準※9で建設もしくは旧耐震基準で建設され耐震改修が不要又は施工済みの施設は「5」、耐震診断未実施の施設は「1」と評価。	耐震性能有り	5
III. バリアフリー	バリアフリーの対応状況を示す指標 6項目について確認。全ての項目に対応している場合「対応」、一部でも対応している場合「一部対応」、非対応及び設置義務のない施設の場合「非対応」と評価。	一部対応	3
IV. 利用状況	施設の利用状況(稼働率)を示す指標 年間利用件数÷年間利用可能コマ数 数値が高いほど、施設の稼働率が高い。 貸室等の機能が無く、稼働率がカウントできない施設は「0」と評価。	- (%)	0
V. 利用者負担の割合	施設コストに対する利用料等(利用者負担の割合)を示す指標 利用料等÷施設コスト(①維持コスト+②運営コスト) 数値が高いほど、利用料等と施設コストのバランスが取れている。 利用者負担を伴わない施設は「0」と評価。	- (%)	0
VI. 延床面積1㎡当たりの維持コスト	延床面積1㎡当たりの施設維持にかかるコストを示す指標 (①維持コスト-工事請負費)÷延床面積 施設間で相対的に比較するため、工事請負費を除くものとする。 数値が高いほど、施設維持にコストがかかっている。	5,211 (円/㎡)	2
備考	市民図書館中部分館(経過年数49年,延床面積1148.96㎡)、自転車置場(経過年数49年,延床面積42.8㎡)、物置(経過年数23年,延床面積11.22㎡)		

※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。

碧南市公共施設カルテ

調査年度	平成30年度
------	--------

施設名	市民図書館南部分館		
従たる施設の場合、主たる施設名	南部市民プラザ		

大分類	社会教育系施設	中分類	図書館	施設番号	20
-----	---------	-----	-----	------	----

所管部局	文化創造課
------	-------

1 土地データ

所在地 (小学校地区)	碧南市 塩浜町7丁目135番地	敷地面積	- ㎡
	(大浜小学校区)	うち借地面積	- ㎡

2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)

構成棟	市民図書館南部分館				
複合・併設施設	-				
建築年度	平成3年度	経過年数	27年	総取得費	- 千円
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	486 ㎡	うち借用面積	- ㎡
階数(地上)	- 階	階数(地下)	- 階	避難所指定	指定無し

3 管理運営データ

利用状況※1	H27年度		H28年度		H29年度		平均利用者数	管理形態			
	57,488 人		55,607 人		53,123 人		55,406 人	直営			
施設コスト ※2 (H27~29年度) (ファシリティコスト) ①維持コスト 建物を良好に保つ ために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供 するために要する 経費	内 訳		金額(円)		内 訳		金額(円)				
	収 入	利用料等		-		支 出	①維持コスト	人件費(賃金含)	1,473,558		
		国 費		-			修繕料	113,752			
		県 費		-			火災保険料	4,474			
		その他		23,520			維持管理委託料	1,337,375			
		市費(一般財源)		18,564,048			敷地借上料	459,080			
	合 計			18,587,568			工事請負費	14,400			
	施設外観							その他維持費	-		
								小 計	3,402,639		
								②運営コスト	人件費(賃金含)	10,891,566	
							光熱水費	929,616			
						その他委託料	-				
						その他運営費(事業費)	3,363,747				
						小 計	15,184,929				
						合 計(①+②)	18,587,568				
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3				延床面積1㎡当たりの施設コスト※4						
	335 円/人				38,246 円/㎡						
	利用者1人当たりの負担額※5				市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6						
				- 円/人				255 円/人			
特記事項											

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

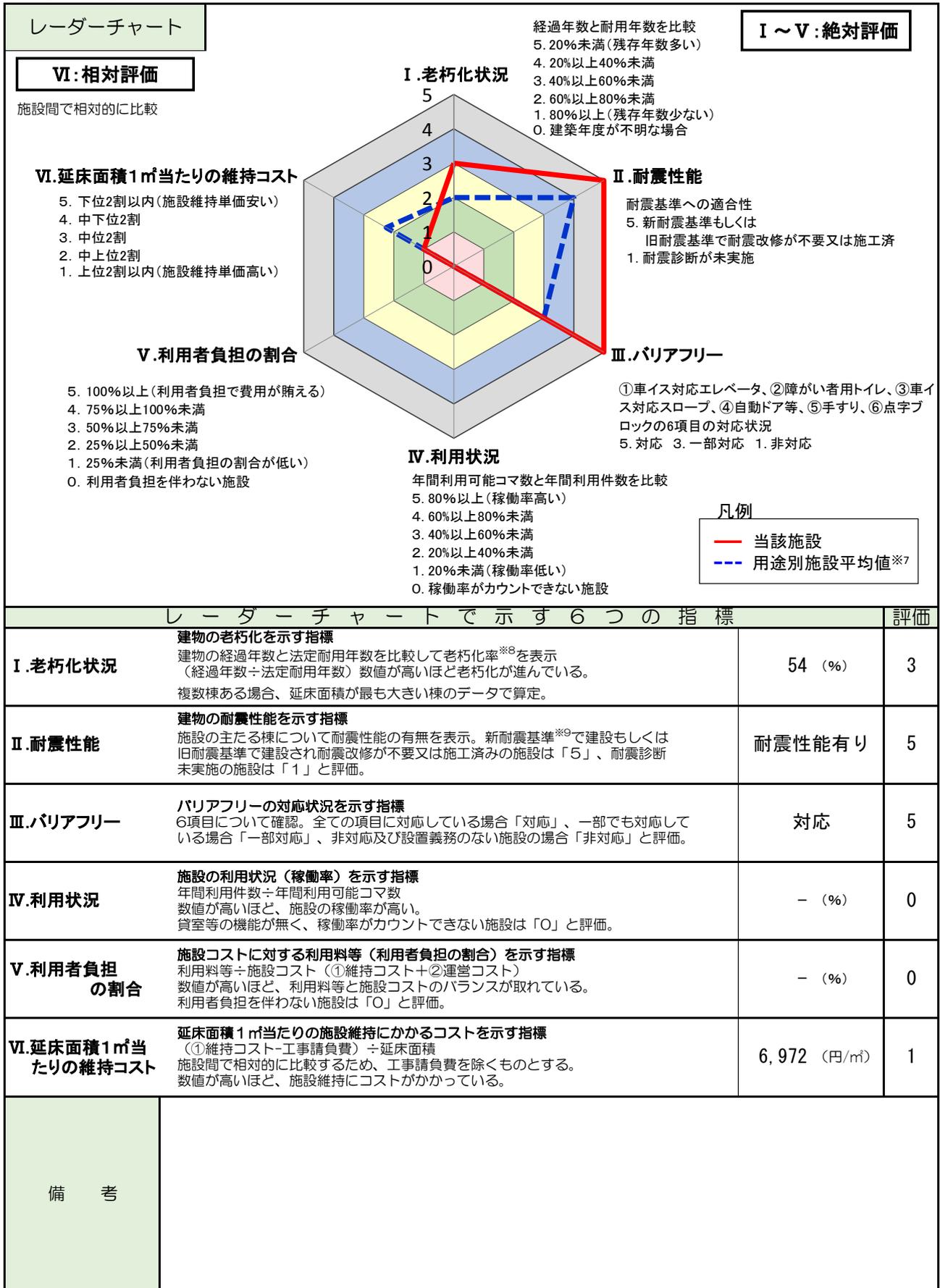
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1㎡当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(平成30年4月1日現在の72,762人)

4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。